

# ストリート・コンチェルトの5年間を振り返って

～祭りの晩に軽トラックの荷台で電子オルガンを弾いてみてわかったこと～

森松 慶子

## 1.企画の当初の目的

「ふだんはコンサートホールの中でイズマイを正して聴く曲を、街にひっぱり出して風通し良くドッカーン！と楽しんじゃえ、という企画。来年自分も演りたい人、同時募集中」

2011年8月8日夜、譜面台に置いたスケッチブックにマジックでそう殴り書きし、地元商店街恒例の「ヤーヤー祭り」で、コンチェルトのみにプログラムを限った路上演奏会を敢行した。

タイトルは“ストリート・コンチェルト in ヤーヤー”。この企画を立ち上げた目的は、当初次の三つ。

- 奏者が余分なプレッシャーを感じず、開放的な祭りの空気の中でのびのびとコンチェルト演奏を楽しむ。
- クラシック系のコンサートを聴きに来ない人たちにも、祭りという場でコンチェルトを聞き、余分な構えや先入観及び予備知識の無いところで演奏自体を楽しんでもらう。
- 従来街角のデモンストレーションではソロでポピュラー曲を演奏することが多かった電子オルガンが、さまざまな楽器を相手にクラシック曲を演奏する場面を創出する。

5年間続けてきた現在改めて振り返ってみると、筆者の当初の目的以外にもこの企画が果たせる役割というものがあることに気づいた。それは後に述べることにして、次に企画の概要を説明する。

## 2.ストリート・コンチェルトの概要

### (1) イベントの枠組み

和歌山県田辺市の田辺市商店街振興組合連合会主催のヤーヤー祭りでは、毎年8月8日、市内中心部9つの商店街が19時～21時30分の間歩行者天国になり、商店の売り出し、屋台の夜店やゲーム、大道芸、音楽演奏、最近ではフラッシュモブなどが、通りをそぞろ歩く人々を楽しませる。今年で43回目を迎えた。

路上演奏をするにあたっては、場所を自分で探して

商店街に参加費2,000円を支払う。これはそのまま、場所を貸して下さるお店に電気代等として納められる。街灯の無い場所では照明機材も自分で調達。あとは自分たちで楽器や機材を搬出入、セッティングし、歩行者天国の時間帯に演奏する。もちろんチケットも整理券も不要。ストリート・コンチェルトに関しては、演奏に参加する人たちから参加費を頂くこともしていないし、逆に謝礼を渡すことも無い。

### (2) 編成と選曲及びその意図

ストリート・コンチェルトでは、これまでに電子ピアノ、ヴァイオリン、チェロ、マリンバ、ギター、フルート、声楽、大正琴、バグパイプといった楽器と、電子オルガンのアンサンブルで、本格的なコンチェルトや、学習者向けに書かれた小コンチェルト、さらには、ピアノソナタやその他クラシック小品をコンチェルト仕立てに編曲した疑似コンチェルト的なレパートリーを披露してきた。

基本的には筆者が電子オルガン(ヤマハSTAGEA02 バイタライズ)でオーケストラパートを演奏しているが、芥川也寸志の「エレクトーンの為のGXコンチェルト」等、ピアノがオケパートを務めるレパートリーも若干ある。今のところは1作品の全楽章を演奏しているわけではなく、どれかの楽章を単独で演奏しているが、奏者の力量や準備の問題さえなければ、長い楽章もノーカットで演奏している。これは学校や諸団体から依頼されてのコンサートでは、なかなかやりにくい。

コンチェルトのみのプログラムなので、必ずしも聴き手が良く知っている曲ばかりではない。しかし未知の曲であっても、演奏が生き生きと曲の魅力を伝えられれば聴衆に楽しんでもらえる。そのために奏者は余計なプレッシャーで固くならず、大曲だろうが難曲だろうが臆せずのびのびと音楽的に振る舞う必要がある。

コンサートの後に聴き手が“良かったよ”と言って下さる場合、演奏の善し悪しではなく好きな曲を聴けた

から、と満足して下さっていることも少なくない。その意味で、街角で知らない曲をふと耳にし、長い曲でも立ち止まって最後まで聴いて下さる身内でもない人の有無は、奏者にとって貴重な試金石である。

### (3) 参加者

ストリート・コンチェルトは、コンチェルトをバリバリ弾ける名手以外にも、なるべくいろいろな立場で音楽に関わっている人が一堂に会する場にしたいと考えている。そういうわけで、演奏家として活動している人に混じって、ごく一般的な生徒、コンクールで既に活躍している生徒、音楽教室や音楽大学の先生、現役の愛好家や昔ピアノを習っていて長い間楽器から離れていたリバイバル組の愛好家、音大卒業後音楽とは関係ない仕事をしながら時々演奏を続けている人等、さまざまな人に一緒に頂いている。

筆者が声をかけてお誘いした方が殆どであるが、スケッチブックの「来年自分も演<sup>き</sup>りたい人、同時募集中」の文言を見て名乗り出てきた人もいる。また、筆者がフェイスブックやツイッターを介して知り合いになった県外の音楽の友人が参加した年もある。

### (4) 参加者数と曲数

1年目の2011年は、筆者が普段一緒に演奏会をすることが多い音楽仲間3名に声をかけ、5曲を用意した。歩行者天国になる2時間半をフルに演奏に使えるわけではない。ヤーヤー祭りでは鼓笛隊が商店街を練り歩く。鼓笛隊が近づいてくればこちらは演奏を控えるか、鼓笛隊の音に合わせて適当に音を出して遊ぶなどしてやりすごす。鼓笛隊以外にもフラッシュモブなど、近所で音を出すイベントが始まると、適宜こちらの演奏を一時休止したり、こちらも演奏を続けたりする。正味の演奏時間は2時間+αである。

曲順等は事前には決めず、道ゆく人や立ち止まる人の流れを見ながらその場で決めていく。ソリストの知り合いが聴きに来られる時間に合わせることもよくある。最初の数年は曲数も少なく時間に余裕があったので、各曲を2～3回、適当に繰り返し演奏した。

曲数と参加者は年々増加し、2015年には筆者を含めて16名で15曲を準備しての本番であった。1曲を1回ずつ演奏するので時間的に精一杯だった。今後も2時間+αに全体の演奏をおさめなければいけないので、

曲数的には、1曲の長さにもよるが、15～20曲の間で調整することになるだろう。

### (5) 会場とセッティング

ストリート・コンチェルトは、1年目だけ別の場所だったが、2年目から仏壇店さんの砂利の駐車場を会場にお借りしている。たまたま仏壇店のお孫さんが、その年ドイツ留学から戻ったばかりの声楽家で、この頃筆者とおつきあいが始まったこともあり、それ以降ずっとこちらを開催場所とさせて頂いている。

セッティングは年々変化があるが、現在は2台の軽トラックの荷台にそれぞれ電子オルガンとマリimbaを乗せ、砂利の上に敷物を敷いて電子ピアノやチェロ、ヴァイオリンその他のソリスト、という形に落ち着いている。本年からはオケパートを割り振る曲も出てきて、2台目の電子オルガン（ヤマハ D-Deck）も下にセッティングしている。

電子オルガンと電子ピアノからの音はラインで、他の奏者の音はマイクでミキサーに集め、軽トラックの上の筆者が電子オルガンを演奏しつつバランスをとる。音は、奏者の背後から道路の聴衆に向けてスタンド上にセットした2つのメインスピーカー（ステージパス600i）と、電子ピアノの脇とソリストの立ち位置にそれぞれ1つつつモニター代わりに置いてある小さいスピーカー（MSP5）から適当と思われる音量で出している。その都度音量とバランスについては反省があり、毎年翌年にリベンジをかけて試行錯誤を繰り返している。具体的な出音の工夫は別の機会にまとめたい。

### 3.5 年間続けてみての所感

筆者がこの企画を始めた当初の意図は冒頭で書いた通りであるが、それ以外にもこの企画が担っている役割を、5年目を終えて自覚しつつある。

□コンチェルトをホールから路上にひっぱり出して多くの人に聴いてもらうということは、同時に、その曲を演奏できるソリスト達をひっぱり出して大勢の人に紹介するということでもあった。

地元の名手達が生き生きとヴィルトゥオーゾぶりを発揮する姿を見て、どこで教えている人か？と連絡先を聞く人もあれば、改めてコンサートの話がまとまる人もいる。海外から田辺に留学してきた楽器の達者な高校生や、小さい頃から地元でレッスンに励んできて

将来音楽の道を目指し始めた名手の中高生達を地域に紹介する場ともなっており、一種のショーケースのような役割も果たしている。

□普段は音楽以外の仕事や子育てで、大曲と、もしくはそもそも音楽と向き合う時間をとれずにいたが、「ダメもとでコンチェルトに挑戦して、学生時代に演奏に打ち込んだときの感覚が蘇ってきたのが嬉しかった」と、翌年また新しい曲を持って来て下さる奏者さんもある。1年目の演奏が思った通りの出来でなくても、今年はその経験を生かしてもっと頑張れそうだから、と戻ってきてくれる。奏者個人のモチベーションを上げる役割も果たせているようで非常に嬉しい。

□コンチェルトを主軸としたプログラムではあるが、前述の通り筆者には、なるべくいろいろな立場で音楽と関わっている人が一堂に会する、括りのゆるいイベントにしたいという思いもあり、コンチェルト演奏は荷が重いという人にも擬似的なコンチェルトで参加する枠を設けている。かつてピアノを習っていたがレッスンに通わなくなって現在は子育て中の友人には、彼女が昔さらっていたピアノソナタ等をコンチェルト仕立てにした、作編曲家で電子オルガン・ピアノの演奏家でもある西山淑子氏のアレンジや、筆者自身のアレンジを弾いて頂いている。ピアノ指導者でこの枠に参加した方は、よりコンチェルトらしくしてみようと、自前のカデンツをこしらえて披露した。経験値を上げ、モチベーションを維持しながらステップアップしていく機会として使ってもらっているのも有り難い。

#### 4.今後の展望

5年前に3人、5曲で始めたストリート・コンチェルトは、本年16名、15曲に達したところで、ボリューム的なMAXを見極めた。今後は互いに切磋琢磨し



てクオリティを上げる努力をしつつ、企画全体の敷居の低さを維持、コンチェルトのような大曲にも開放的でのびのびとした気持ちで臨み易い環境作りに留意し、企画スタート当初の目的と、5年目になって見えてきた果たしうる役割とを、良い形で実現していきたい。

筆者が電子オルガンを演奏する人間でなければ、恐らくコンチェルトを路上で演奏しようという発想にはならなかっただろうし、やってみたいと思っても実際難しかっただろう。荒っぽい企画であることは間違いなく、眉をひそめる方もあろうが、この試みで自分自身にとって発見のほうが多い。反省点も、必ず次へのステップアップの材料となると感じられる。今後もストリート・コンチェルトは継続したいと考えている。

実は筆者は、ストリート・コンチェルトと表裏一体のもう一つの企画を温めている。その名は、コンチェルト・イン・デュオ。ストリートで鍛えた度胸と集中力、そして屈託なく音楽を楽しむ姿勢をそのままホールに持ち込み、電子オルガン奏者と各種楽器の二重奏という、室内乐的な演奏形態でのコンチェルトレパートリーを奏者も聴衆も堪能する、というものである。

コンチェルト作品は大勢のオーケストラ対ソリストで演奏するときと、電子オルガン奏者対他の奏者の一対一で演奏するときでは、演奏としての面白さや、浮かび上がってくる世界観が異なる。詳しくは拙論「交響的室内楽」としての電子オルガンアンサンブル～演奏形態が音楽に与える本質的意義の考察～（2002年全日本電子楽器教育研究会論文集）をご参照頂きたい。コンチェルト・イン・デュオが開催できた時に、路上で聴いてみて案外クラシックも面白いから、とホールに来て下さる方が・・・という循環も密かに願っている。

（音楽ライター、作編曲、電子オルガン演奏 もりまつけいこ）

